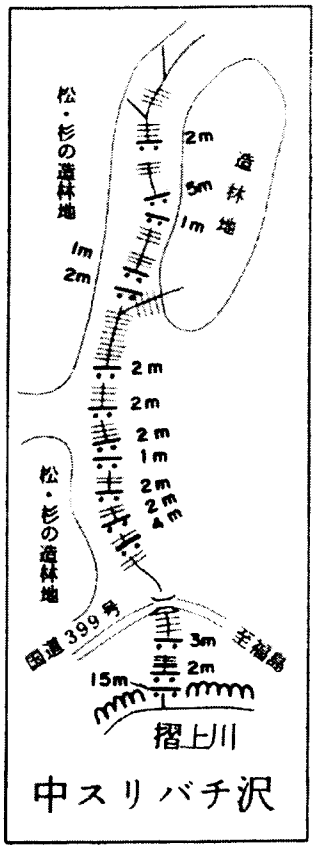
中スリバチ沢（仮称）

一九八三年六月四日

出合は流木と土砂で埋っていた。一三時一五分、遡行開始。すぐナメが出てくる。サンショウウオが棲んでいるところをみると、盛夏でも完全に水がなくなるということはなさそうだ。二m程の小滝をまじえてナメがずっと続く。滝の所や深い釜のある所には、岩に足場が刻み込んであるので通過は楽だ。この足場、どうやら伐採作業の人達が刻み込んだようである。依然としてナメと小滝が続いている。

一三時五〇分、沢は格別変化もないままに源流まで来てしまった。今は背丈以上のブッシュが繁っている造林地の中を、右手の尾根めざしてヤブこぎに入る。

【タイム】中スリバチ沢出合（一三：一五）→遡行終了（一三：五〇）→尾根（一四：一五）



遡行終了点

沢の遡行を、何処で打ち切るかと考えるとき、いつもこの先もっと面白い滝が出てくるかもしれない、先はまだあると思いながらも、水が少なくなり、藪が覆いかぶさると藪こぎに嫌気がさし、もうあとはなにもないと自分に言いきかせる。

ここで打ち切って尾根へ逃げよう、引き返そうと思う、心の戦いがある。そしていつも負けて、遡行を打ち切るのである。

沢の遡行調査に入ったならせめて最後まで登りたい。